



檜山の歴史・文化

和人による北海道史の 発祥の地（上ノ国町）

檜山海岸の南端に位置する上ノ国町は、和人による北海道開発の礎となった場所。12世紀に源頼朝の奥州征伐から逃れた藤原泰衡一族や流罪人が渡ったことに始まるといわれ、「館（たて）」と呼ばれる城館にこもって支配地域の拡大を計った。「勝山館」は1457年に松前藩祖の武田信広が北方貿易の拠点としてこの地に築いたもの。他にも、北海道で最古の寺「上国寺（国指定重要文化財）」や、最古の民家「旧笹浪家住宅（国重要文化財）」など多数の歴史遺産がある。



勝山館跡から見下ろす上ノ国町



旧笹浪家住宅



上国寺本堂

江差の五月は江戸にもない ～北海道文化発祥の地～（江差町）

江戸時代、江差町や乙部町ではニシン漁が盛んだった。獲ったニシンは食用や肥料などに加工され、それらを求めてたくさんの方々がここにやってきた。ニシンを本州に運んだ北前船は、その反対に、食料品や調度品、文化や人、技術など、あらゆるものを江差に運び入れる。続々と訪れる船と売商人、それに伴って賑やかになるまち。やがてそれは「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどに繁栄する。祭りや江差追分といった文化も、この北前船が運んできたもの。



春、ニシンの群来が訪れた
かもめ島の蔵島神社
(2023年2月撮影)



いにしえ街道

語り継がれる義経伝説（乙部町）

その昔、九郎半官義経が兄頼朝の追討を逃れ、乙部に蝦夷地で最初の足跡を残した。乙部には地名としてその逸話が刻まれている。乙部岳は義経の別名九郎半官から九郎岳、静御前を思いつつも越えなければならなかった峠は姫待峠と呼ばれている。また義経を追って乙部にたどり着いた静御前だが、義経はすでに川を上り乙部岳を越え、2人は会うことが出来なかった。悲嘆にくれた静御前は、義経が上った川に身を投げてしまった。そしてこの川を姫川と呼ぶようになったのである。



静御前が身を投じたといわれる姫川



メークイン発祥の地 （厚沢部町）

中世の春の祭り（メーデー）に選ばれる女王にちなんだ名前の由来をもつ、英国生まれのジャガイモ「メークイン」。北海道で初めて栽培されたのは厚沢部の地だった。明治43年に檜山農事試験場で栽培への取り組みが始まり、良品種の普及や栽培技術の向上に努め、今では町随一の特産物としてその名を知られている。令和4年、毎年夏に開催されるあっさぶふるさと夏まつりで、あっさぶメークインを使ったジャンボコロツケでギネス世界記録®を達成している。



メークイン発祥の地碑



あっさぶメークイン



ジャンボコロツケ調理の様子

日本初の女医・ 荻野吟子ゆかりの地（今金町・せたな町）

日本における最初の女性医師である荻野吟子は嘉永4年に埼玉県で生まれ、16歳で結婚するが、夫からうつされた性病にかかり入院。その際女医の必要性を痛感し、自身が女医となる決意をする。離婚後本格的に学問を始め、明治18年、34歳の時、女性として初めて医術開業試験に合格。その後に牧師の志方之善と結婚し、明治27年、北海道に渡り現在のせたな町で開業。今金町には吟子ゆかりの教会と歌碑があり、日本人初の女医・荻野吟子のロマンが息づいている。



荻野吟子公園顕彰碑



インマヌエル教会

震災と復興の歴史（奥尻町）

奥尻島は平成5年7月12日、北海道南西沖地震の地震・津波より死者198名の犠牲者と壊滅的な被害を受け、人口4,500名の町は絶望の危機にさらされた。しかし全国から寄せられた温かい支援により震災からわずか5年で完全復興宣言。地震・津波防災対策により災害に強い町に蘇り、そこで暮らす島民は地震・津波から命を守る術を後世に語り継いでいる。また、この防災意識をより広く後世に伝える防災推進プロジェクトを全国に発信して教育旅行の受入れも積極的に行っている。



慰霊碑・時空翔 昼景

時空翔に沈む夕陽▶



7つのまち 町名の由来

【檜山】

由来となったヒノキアスナロは、軽くて柔かく加工がしやすい上、十分な強度と耐久性を持ち良質な木材として幅広く活用された。

【江差町】

「昆布が採れる場所」「岬が突き出している場所」などを表すアイヌ語に由来すると推測されるが諸説あり。町木はヒノキアスナロ。

【上ノ国町】

15世紀頃、南部の日本海側を上ノ国、太平洋側を下ノ国と称し、交易の拠点として、勝山館を擁したこの地に上ノ国の名が残った。

【厚沢部町】

アイヌ語の「アツ・サム（楡皮・干す処）」「ハチャム・ベツ（桜・川）」など由来は諸説あり。良質なヒノキアスナロが採れたまち。

【乙部町】

アイヌ語の「オ・ト・ウン・ベ＝川口に・沼・ある・川」が転じたもの。対象となった川は「姫川」と命名され、今もまちを流れる。

【奥尻町】

アイヌ語の「イクシユン・シリ」から「イク（向こう）・シリ（島）」と訛ったものを由来とする。意味は「向こうの島」。

【今金町】

明治26年に入植し、開拓の先陣をきった今村藤次郎と金森石郎、この二人の姓を一字ずつもらって、昭和22年に「今金町」に。

【せたな町】

平成17年の町村合併の際に公算によって名付けられたもの。せたなの語源はアイヌ語の「セタルシュベナイ（犬の川）」にある。